



おき

時若くは法安に依

るも厚きをいふは

初らる殊に稀也

の佳本と云

併き元珍の跋也

を挿すあらぬ

法くしあし抄

今千一の外身を今

半漢の境に出

久の園忘るの響

を絶する

買取に余の山に接行

下りて交易好結

如く一付に何れも

日お其さると日

付るに成る本

命短長也

おき

まのり

雲

春城法宗

總下

春城法宗

